

F 0 2 - 0 3



校内研究 ガイドブック

■校内研究モデルプラン■



千葉県総合教育センター

令和3年3月

はじめに

学習指導要領の改訂に伴い、各教科等の指導に当たって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。そのため、教職員一人一人の資質能力の向上が必要であり、意欲をもって学び続ける教職員の育成が一層重要になってきています。

教職員の資質能力の向上のためには、自発的、継続的に校内研究が実施されることが不可欠です。また、校内研究が組織的に行われることにより、教職員間での組織目標の共有化とそれに伴う協働が進み、学校の組織力を向上することが期待できます。

校内研究は、各学校や地域の実態に根ざしたものであり、日々の授業などにその成果が反映されやすく、教職員自身が学びの成果を実感しやすいなど、教職員の学ぶモチベーションに沿ったものとなります。

千葉県総合教育センターでは、「校内研究ガイドブック」（平成21年3月）、「すぐに使える校内研修の手法とツール～参加・体験型研修のすすめ～」（平成28年3月）を作成・配付し、また研修事業での講話・演習で活用するなど、その普及に努めてきました。

平成31年度からは、「これからの時代に生きる教員を育てる教員研修の在り方に関する研究」を主題とし、教職員の資質能力向上のための効果的な校内研修の在り方について研究を進め、その成果を生かして、校内研修の中核である校内研究に焦点をあてた「校内研究ガイドブック」の作成に着手しました。「限られた時間で効果的・効率的に」「参加・体験型へ」をキーワードに、経験の浅い研究主任の方でも、校内研究モデルプランを活用し、1年間の校内研究が進められるように本ガイドブックをまとめました。

各学校で、本ガイドブックを活用しながら教職員が「授業力」向上の必要性や意義を理解し、「信頼される質の高い教員」を目指して、実効性のある校内研究が実施されることを期待しています。

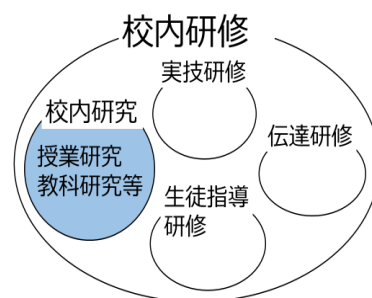
令和3年3月

千葉県総合教育センター

＜校内研究と校内研修の捉え方＞

「校内研修」と「校内研究」の用語による混乱をなくすため、本書では以下のように用語を定義し、使用することとした。

- 「校内研究」とは、研究テーマのもと、「授業研究」を実施して、研究の成果や改善点を明らかにしていく一連の過程。「校内研究」は、「校内研修」の一部。
- 「授業研究」とは、指導案作成、検討、授業展開、研究協議会までの一連の過程。



＜校内研究を進めるにあたって＞

- 1 教職員の意欲向上や話合いの充実のために、参加・体験型の研究協議を取り入れましょう。
- 2 働き方改革における業務改善が求められている中、限られた時間の中で効果的・効率的に校内研究を進めましょう。
- 3 校内研究モデルプランを活用しながら学びの成果を実感できる研究を推進していきましょう。

＜校内研究モデルプラン＞

校内研究を、「研究の計画・共通理解」→「研究の実践」→「研究のまとめ」→「次年度に向けて」というPDCAサイクルの形態で実施することによって、研究を継続的に行うことができ、研究主題・研究実践等をより深く追究していくことができます。

プロセス1 研究の計画・共通理解

- 1 実態把握
- 2 研究主題の設定
(達成手段や手立ての具体化)
- 3 研究の方向性
- 4 研究組織の決定
- 5 年間研究計画の作成

プロセス2 研究の実践

- 1 校内授業研究の推進
 - (1)役割分担
 - (2)授業参観の視点の共有
 - (3)指導案の検討
 - (4)授業研究会の実施（授業展開・協議会）
 - (5)授業研究会のまとめ
- 2 日常の授業実践に生かす

プロセス4 次年度に向けて

- 1 研究の方向性の明確化
- 2 研究全体会の開催

プロセス3 研究のまとめ

- 1 児童生徒の変容を把握
- 2 成果と課題の明確化
- 3 研究報告書の作成

こんな学校見つけました！～校内研究の風景～

全体会（公開研究会）



研究推進委員会



各学校で様々な取組が行われています。



ICTの活用



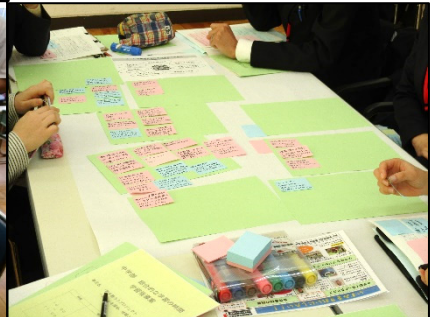
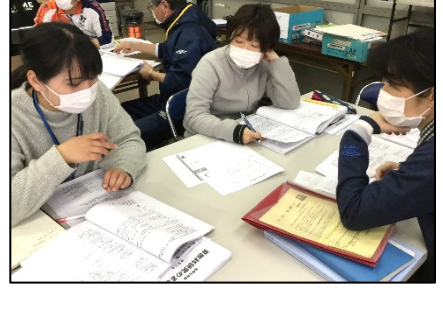
準備（会場設営）



分科会



思考ツールの活用



参加・体験型へ

限られた時間で効果的・効率的に

目 次

プロセス1 研究の計画・共通理解

1	実態を把握しよう		1
2	研究主題を設定しよう		2
3	研究の方向性を決めよう		5
4	研究組織を決定しよう		6
5	年間研究計画を作成しよう		7
	～コラム「資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント」～		9

プロセス2 研究の実践

1	校内授業研究の推進を図ろう		1 0
	(1) 役割分担		1 1
	(2) 授業参観の視点の共有		1 2
	(3) 指導案の検討		1 3
	～コラム「指導案検討の事例」～		1 4
	(4) 授業研究会の実施（授業展開・協議会）		1 5
	(5) 授業研究会のまとめ		2 2
2	日常の授業実践に生かそう		2 3

プロセス3 研究のまとめ

1	児童生徒の変容を把握しよう		2 5
2	成果と課題の明確化を図ろう		2 7
3	研究報告書（研究紀要）の作成をしよう		2 8

プロセス4 次年度に向けて

1	次年度の研究の方向性を明確にしよう		2 9
2	研究全体会を開催しよう		3 0
	～各参考資料及び動画リンク集～		3 1

巻末資料

・ 授業研究会準備シート①		3 2
・ 授業研究会準備シート②		3 3
・ 指導案例（道徳）		3 4
・ ファシリテーターの役割		3 6
・ 校内研究評価表（例）		3 7
・ 改善のための手立てのヒント		3 8



サポ先生

みなさんの学校の校内研究が、より良いものとなるようなポイントについて、紹介していきます。

先生方が時間を意識して効果的・効率的に校内研究を進めるための手立てをお話ししていきます。



わかばさん

プロセス1 研究の計画・共通理解

校内研究の計画を立て、全教職員で共通理解をする過程。

学校の実態把握を基に、研究主題・研究目標を設定し、達成手段や手立てを具体化していく。また、校内研究を進めるために研究の組織をつくり、1年間の見通しをもち、年間計画を作成する。

1 実態把握をしよう

研究主題を設定するために、まず実態把握を行うことが必要になります。特に、児童生徒の実態把握については、客観的データに基づいて具体的に分析することや、日頃の授業や日常の児童生徒の様子から、実態をつかむことが大切です。研究を進めていくにあたり児童生徒の変容を見取る上でも重要となってきます。

【学校の実態】

- 児童生徒の実態
- 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力
- 保護者・地域の実態や願い

【学校教育に求められている課題】

- 国が出している答申、報告、資料等
- 県の方針、報告、資料等
- 市町村の方針等
- 教育関係の書籍、情報誌
- 新聞やインターネット等の情報
- 先進校等の研究紀要・報告書等

千葉県総合教育センターのカリキュラムサポート室には、参考になる様々な資料や情報がそろっています！



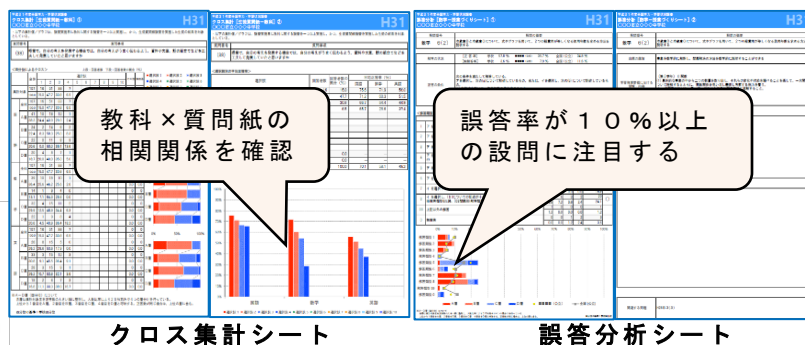
取組例 学校評価や授業アンケートを活用する

学校内で行われる各種アンケートを基に、児童生徒の実態を把握することができる。児童生徒の「良さ」や「課題」等を整理したり、教職員の「思い」や「願い」を明確にしたりする。ここから、研究の方向性を考えていく。

取組例 全国学力・学習状況調査を活用する

- ①全国学力・学習状況調査の結果を基に、児童生徒の実態を分析し、課題の把握をする。
- ②本センターで作成した「分析ツール」の「クロス集計シート」を活用し、児童生徒の生活習慣や学習習慣との相関関係を把握する。また、「誤答分析シート」を活用し、教科に関する調査結果の中で課題が見られた項目や設問について、つまづきや特徴を分析する。

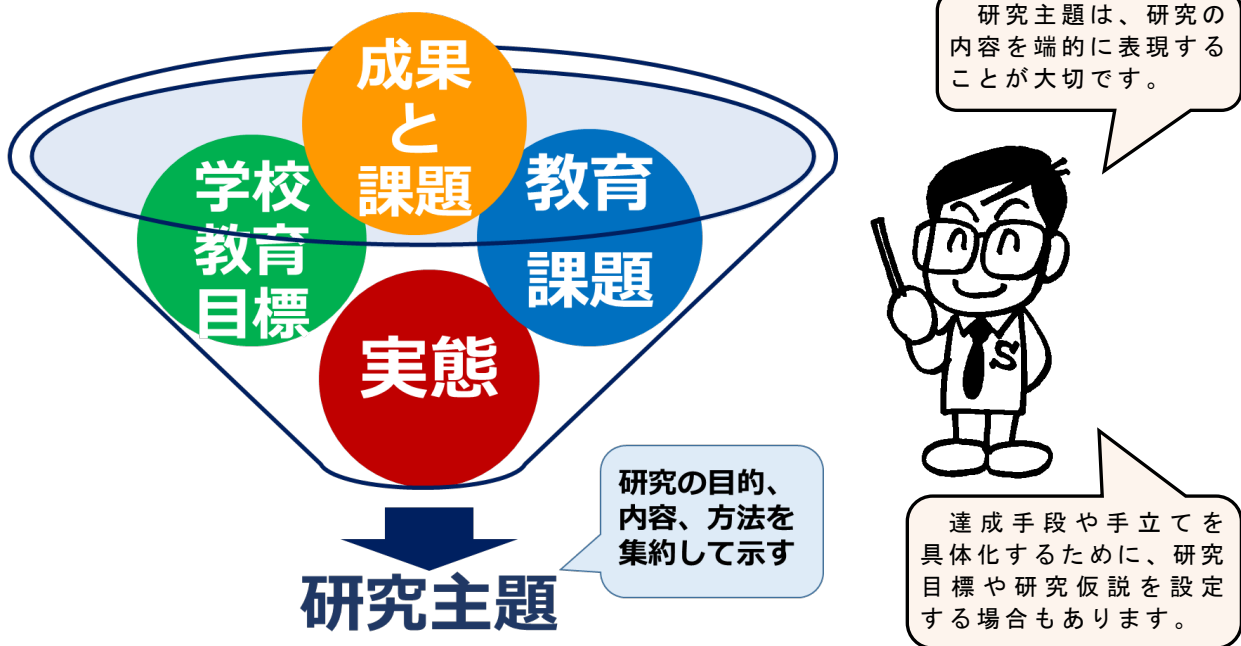
分析ツールは、千葉県総合教育センターWebサイトからダウンロードできます。
(活用には、学校に配付されているパスワードが必要です。)



2 研究主題を設定しよう

研究主題は、全教職員の共通理解と納得に基づいて決定することが大切になります。年間を通した取組にするため、研究に対する先生方の理解と取組の意図等を明確にし、研究に関するモチベーションが維持できるように配慮していきましょう。

学校教育目標と関連させながら、教育課題、児童生徒の実態、これまでの研究における成果と課題等を共有し、課題の解決に向け、研究主題を設定していきましょう。児童生徒に身に付けさせたい資質・能力や児童生徒像を全教職員で考え、イメージ化することも大切です。



研究主題は、次のことを総合的に検討し決定する。

①学校の教育目標や本年度の重点目標を具現化する

校長の方針のもと、目指す学校像の具現化を図り、全教職員で取り組む。

②これまでの校内研究の成果と課題を取り入れる

前年度までの校内研究の成果や課題を整理し、発展・深化させ実践に取り組む。

③今日的な教育課題の解決に向けて取り組む

国や県等の教育施策に対応するために、自校の実態に合わせて実践する。

④客観的データに基づいた児童生徒の実態を把握する

児童生徒の実態を客観的データから分析し、共有する。

カリキュラム・マネジメントを取り入れ、研究実践へとつなげていくのもよいですね。



取組例 課題を焦点化し、研究主題を決定する

テーマ(例)「学習を進める上での課題について」(研修時間60分)



[第1段階]

児童・生徒の課題を付箋に書き、まとめ、課題を共有しよう！

思考ツールを活用しながら、参加・体験型の研修を進めていきましょう！



①各自が課題として感じていることを付箋に書き、似たものを集める。

内容が理解できて書くことが苦手
学力差が大きい

授業中おしゃべり
ノートに書かない
発表の仕方を知らない

挨拶ができない
服装がだらしない
時間を守れない

1枚の付箋に1つの内容を、思いつくままに次々と書くことがポイントです。



②似た内容のまとまりごとに小見出しをつける。

学力不足・学力差が問題

学習規律ができていない

基本的な生活習慣ができていない



小見出しを付箋に書いておくと、第2段階の場面で整理や移動が簡単にできます。



[第2段階]

課題に対する改善策を付箋に書き、まとめよう！

○小見出しの関連付けを図り、具体的な改善策を考える。

【改善策の例】

- ・学習規律の定着を図る
- ・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る
- ・学習形態を工夫する
- ・学習の約束を明確にして、共通理解を図る
- ・個に応じた指導を行う
- ・系統性を意識し、単元計画を立てる
- ・補充・発展的指導を工夫する
- ・学習の見通しをもたせる
- ・振り返りの場を設定する

付箋に改善策を書くことで共有化がなされ、それをまとめることで活動が具体化されます。





[第3段階]

改善策の中から重点的に取り組む内容を焦点化しよう！

○改善策を整理し、実施可能な範囲を「個人レベル・学校レベル」等に分け、また「すぐにできる取組・追究すべき取組」等に整理する。

	個人レベル	学校レベル	外部との連携
すぐにできる	時間を守る	学習形態の工夫 学習の約束の明確化	保護者への協力を図る 挨拶運動の推進
今年度中にできる		学習の見通しをもたせる 振り返りの場を設定する	ゲストティーチャーの活用の推進
時間が必要		系統性を意識し、単元計画を作成する	誰が何をするかという役割分担や、対応の優先順位を決めておく取組が具体化されます。



[研究全体会後の研究推進委員会等での活動]

- 改善策の中から重点的に取り組む内容を焦点化する。
- 研究主題を立案し、全教職員で協議・共通理解を図る。

取組例 研究主題の立て方

○研究主題に含む構成要素を意識して、研究主題を設定する。

【構成要素・主題の中に入れるべきこと】

- 1 学校として目指す資質・能力（目指す児童生徒像）
- 2 手立て、指導法等
- 3 研究の内容となる教科・領域

構成要素の3点のうち、2点は入れましょう。

（例）自ら考え、主体的に表現できる児童の育成
～国語科の表現活動の充実を通して～

主題と副主題の関係から見ると…

主題が目指す資質・能力

副主題は教科・領域と指導法になっていますね。

（例）探究的な学習に主体的・協働的に取り組み
よりよい生き方を見出すことができる子どもの育成
～地域の特色を生かした、教科等横断的な学習～

（※研究協力校の実践より）



研究主題の決定

3 研究の方向性を決めよう

(1) 研究目標の設定

研究目標は、研究推進の方向性を明確にし、研究のゴールを示すものです。研究における手立てや児童生徒の目指す姿、身に付けさせたい資質・能力を具体的に決定し、研究の見通しをもちましょう。

取組例

【文章構成】

- A 研究の内容となる教科・領域
- B 手立て、指導法
- C 変容（姿）
- D 学校として目指す資質・能力（目指す児童生徒像）

これらの内容を端的に一文で表すことにより、研究の方向性が明確になります。



研究目標 教科等横断的な学習において、
地域の人々や自然、隣接する施設との関わりを通して、
支えてくれる人々に感謝の気持ちや地域への愛着をもち、
よりよい生き方を見出すことができる子どもの育成を図る。

（※研究協力校の実践より）

(2) 研究仮説の設定

研究仮説は、校内研究の見通しや予測にあたるもので「研究結果についてある程度の客観性をもった仮の判断」です。研究の手立てや児童生徒の目指す姿について、全教職員の共通理解を図るためにも具体的な研究仮説を決定することが大切です。

取組例

【文章構成】

- A（手立て、指導法）をすれば、
- B のような変容の姿が表れ、
- C（目指す児童生徒像）になるだろう。

AとCだけの仮説も多く見られますが、Bが入ることで、児童生徒にどのような変容が表れるのか、その姿が、より明確になり、多面的な考察が可能になります。



仮説1 学びの手順や方法を明確にし、探究的な学習を進めれば、
自己の課題を解決しようと主体的・協働的に取り組むようになり、
学んだことを日常生活に生かす実践力が身に付くだろう。

仮説2 地域の人々や自然、隣接する施設などと進んで関わる体験的活動を
取り入れた学習をすれば、
地域の一員としての自覚や愛着、支えてくれる人々に
感謝の気持ちを持てるようになり、
よりよい自己の生き方を見出すことができるだろう。

（※研究協力校の実践より）

4 研究組織を決定しよう

校内研究を円滑に推進するためには、研究組織が必要です。研究主任が中心となり、研究推進委員会と連携・協力しながら運営していきましょう。

(1) 研究組織の働きの明確化

研究推進委員会などの研究組織を運営する際には、その組織の役割や具体的な作業内容を明確にしていきます。

【研究推進委員会の役割】

○校内研究の立案及び推進

・年間研究計画の作成、研究全体会の資料準備、研究全体会の進行等

○校内研究の記録及びまとめ

・研究全体会及び実践の記録の集約、研究報告書(研究紀要など)の編集及び発行等

○必要な調査の立案及び集約

コミュニケーションを大切にし、
適材適所の配置で、一人一人が考え
を出し合える活動的な組織にしまし
よう！



会議の日程等を決める際
は、教務主任と綿密に打ち合
わせを行うことが大切です。

(2) 実態に応じた研究組織づくり

研究推進委員会の他に、研究実践をすすめていくために、研究主題や学校の規模など、実態に応じた研究組織をつくります。

【例】

校務分掌を生かした 研究組織をつくる	学年を生かした 研究組織をつくる	研究の特質に応じた 研究組織をつくる
◇教科部会など (国語科、社会科・・・ 各教科・領域)	◇学年部会など (小学校では、低学年・中学年・ 高学年部会など)	◇授業研究部会、理論研究部 会、環境部会など



学力向上推進委員会や校内における若年層教員チームの研修などとの
連携を図っていくと、より効果的な組織になります！

【組織の中でリーダーの果たす役割】

○研究の方向性をしっかりと認識する。

○課題をとらえ、解決に向けての問題提起をする。

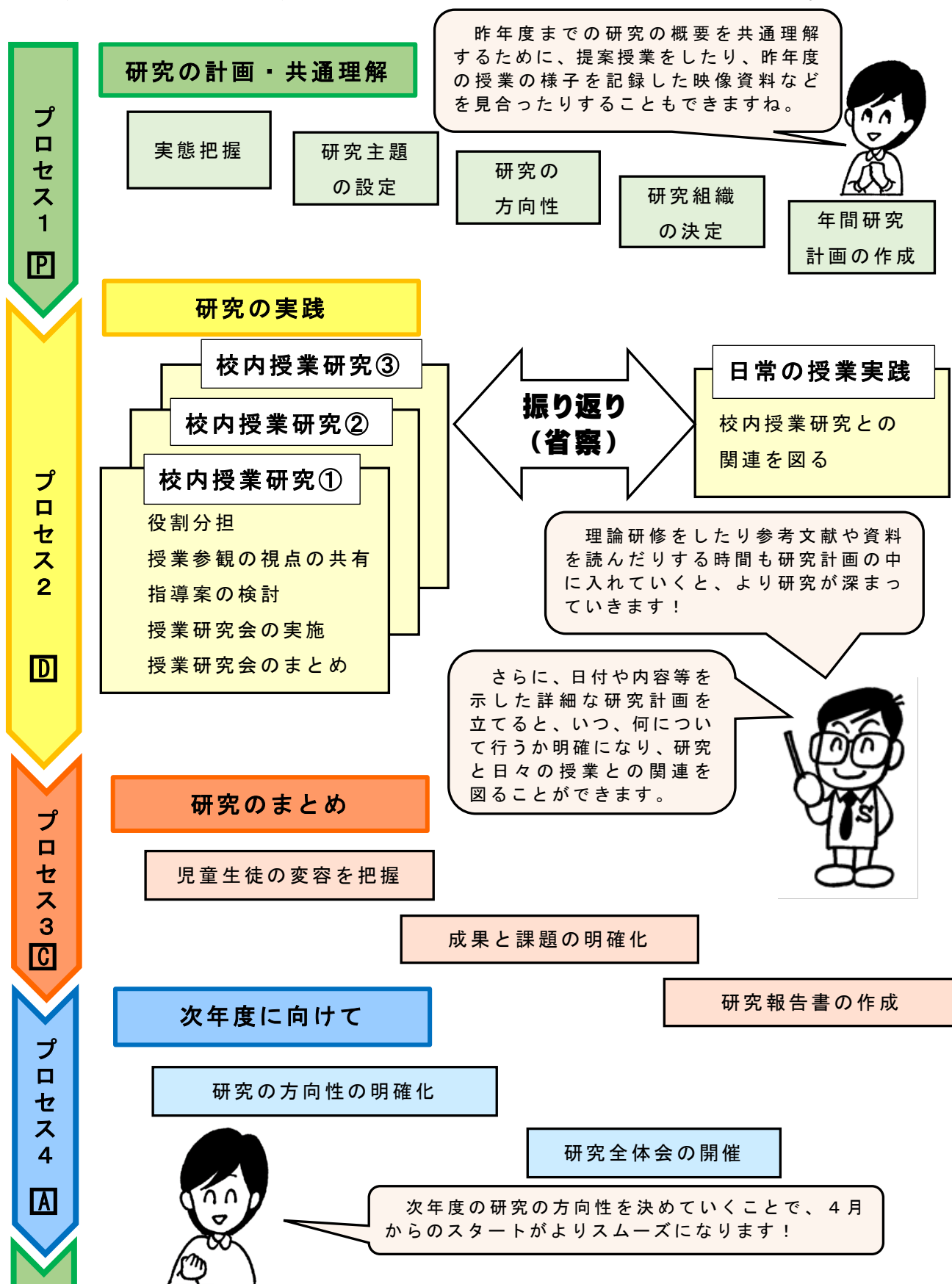
○結論をすぐに出さず、十分な検証や検討を重ねながら、
研修の推進を図る。

各組織のリーダーになったら、
こんなことを意識しましょう。



5 年間研究計画を作成しよう

校内研究を組織的・計画的に運営していくためには、1年間の見通しをもち、実効的な年間研究計画をつくることが大切です。それにより、研究のプロセスを把握することができ、さらに詳細な計画を立てることもできます。



研究の計画・共通理解

□前年度の研究内容、まとめ（評価）の確認

□実態把握・考察（まとめて、資料をつくる）

○全国学力・学習状況調査分析ツールを使って

・学校教育目標や学校評価との関連を調べる（クロス集計シート）

・誤答率が10%以上の設問について調べる（誤答分析シート）

○学校評価や児童生徒への授業アンケートにより実態をつかむ。

□研究主題等の決定にあたり、研究全体会を開催

□研究主題及び目標・手立て等の原案作成

□研究に対する方向性を見据える

○研究内容・組織・方法・研究部会等について

○年間研究計画の作成

○指導案の形式の提示

授業のすすめ方（約束事）、板書、ノートの使い方なども4月の早い時期に全教職員で共通理解を図っていきましょう。

研究推進委員会のメンバーで仕事を分担するといいですね！

教職員の意見・考えを収集しよう。

研究推進委員会で原案を作成していくといいですね。

実技研修や伝達研修等についても内容を検討し、年間研修計画の中へ位置付けていくといいですよ！

研究の実践

指導案検討会

- ・日時、タイムスケジュールの提示
- ・運営（部会ごとに分かれていれば各リーダーが実施）
- ・指導案検討の視点の提示

校内授業研究会

- ・授業参観の視点の提示
- ・全体会の企画、運営

校内授業研究会を繰り返し、振り返ることで研究の質の向上を図る

振り返り（省察）

《日常の授業実践に生かす》

→ 自己の課題を踏まえ、授業研究会で学んだことを日常の授業実践に生かす。

《授業研究に生かす》

→ 日常の授業実践の中での成果や課題を指導案検討の視点に加え、授業研究に生かす。

研究だよりを発行して、常に情報を共有しながら、まとまりのある研究を推進できるといいですね。

研究のまとめ

○児童生徒の変容・成果

○見えてきた課題

○研究報告書（研究紀要）などの原稿の様式を提示し、作成する。

分析して、
まとめる。

授業研究実施ごとに、変容・成果・課題についてまとめておくと、この作業がとてもスムーズになります。

次年度に向けて

○次年度の研究の構想を示す

○研究全体会開催に向けての企画、運営

校内授業研究会前に全教職員で情報の共有や役割を確認しましょう。

こんな学校見つけました！



研究主題設定に向けての協議
(カリキュラム・マネジメントの実践)

～資質・能力を育成するための カリキュラム・マネジメント～

学校として育成を目指す資質・能力を設定し、校内研究と関連付けていくことも大切です。全教職員の共通理解と納得に基づいて決定できるように、協議を進めていく方法の一例を紹介します。

- ①全員で10年後の社会を想定して、子供たちに身に付けさせたい資質・能力は何かについて、付箋に記入する。
(付箋1枚に1項目ずつ、全員が5枚記入。)
- ②グループごとに参加・体験型の話し合いを行う。
思考ツールのピラミッドチャートを使いピラミッドの下段に意見を言いながら付箋を貼っていく。似た内容のものでまとめて、カテゴリーに分ける。
- ③より大切と考えている意見をまとめ、上層に移動していく。
- ④最後に、最も多くの人が重要だと考えた資質・能力を焦点化し、キーワードでまとめ矢印等で全体を関係付ける。
- ⑤グループごとに話し合った結果を発表し合う。



協議の進め方の説明



ピラミッドチャート

【今後の取組について】

- ①全体会を開催し、グループごとに話し合ったことを参考にして、学校としての育成を目指す資質・能力を決定する。
- ②児童生徒の具体的な姿を資質・能力の「三つの柱」で整理する。

- ③手立てを用いた授業改善に取り組む。
校内研究を通してどのような手立てが有効か検討し、授業研究を通して検証していく。

※校内研究で実践していく

- ④PDCAサイクルにより、資質・能力を育成していく。



詳しくは、千葉県総合教育センターが発行した「カリキュラム・マネジメントサポートブック」をご覧ください。



グループごとの発表



プロセス2 研究の実践

研究主題にせまるための達成手段を基に、授業で検証していく過程。

研究主任は、校内研究の推進を図るため、授業研究会に向けて役割分担を決め、その準備を行っていく。授業者は、研究主題と関連付けながら指導案を作成し、その指導案を基に検討会を行う。授業研究会での参観の視点を明確にし、研究協議会では形態を工夫し全教職員が意見を出そうことができるようにする。研究協議会の中での話し合いが部会等に分かれて行われたときは、成果や課題を全教職員で共有するために研究会のまとめを行う。

授業研究会で学んだことと自己の課題を踏まえ、日常の授業実践に生かしていく。また、相互授業参観を実施する等、研究組織を生かしながら、学校の実態に応じて授業実践に取り組んでいく。

1 校内授業研究の推進を図ろう

◆研究主任の仕事の例◆

【役割分担】

- 授業研究会までの全体の役割分担
(授業研究会準備シート①)
- 授業研究会当日の役割分担
(授業研究会準備シート②)
- 役割分担した仕事の進捗状況の確認

校内授業研究会を進めていく上では、

- ・ 授業研究会の役割分担
- ・ 指導案検討会や研究協議会の効果的、効率的運営
- ・ 研究協議会の形態の工夫の3点に配慮しましょう。



【授業参観の視点の共有】

- 研究推進委員会にて
 - ・ 授業参観の視点や見取る方法について検討
 - ・ 授業研究会の内容、進め方の決定

【指導案検討】

- 指導案検討会のプログラム作成
- 検討内容の確認
- 模擬授業や事前授業の計画
- 各分科会の進捗状況の把握
- （必要に応じて全体研修会を開催し、研究の方向性を確認していく。）

指導案検討後、
修正→最終チェック→完成→印刷
1週間前には、講師へ（必着）

【授業研究会の実施】

- 準備状況の確認（前日まで）
- 当日の運営、動きの確認
- 講師への研究概要説明
- 協議会の開催、運営

研究主任は、全体会の流れと内容をしっかりと把握した上で、見通しをもつようにしましょう。組織の機能を十分に生かしながら仕事を分担し、全教職員で進めていけるようリーダーシップをとっていきましょう。

【授業研究会のまとめ】

- 授業記録、協議記録の整理保存
- 成果と課題についてまとめ、共通理解を図る
（次の授業研究会や日常の授業実践へ生かしていけるようにする。）

一人で抱え込まないことが大切です。



(1) 役割分担

研究主任が中心となり各部会や学年等に役割を分担し、組織の機能を十分に生かしながら、計画に沿って校内授業研究の準備と当日の運営を進めていきましょう。

取組例 役割分担や今後の予定等の計画を立てる

授業研究会の運営は、研究主任や研究推進委員、授業者だけで行うものではなく、全教職員の主体的な参加が必要となる。見通しをもって役割分担や今後の予定を計画することが大切である。

(巻末資料「授業研究会準備シート①」P32参照)

○役割分担の主な項目

- ・指導案の印刷・製本
- ・講師との連絡・調整
- ・協議会の準備
- ・記録媒体の準備 等

全教職員で研究に取り組むためには、授業以外の役割分担も明確にしていきたいと思います。



取組例 当日の役割分担を計画する

授業研究会当日になって慌てて準備をすることがないように、研究主任は事前に役割分担をしておく必要がある。研究主任が授業者となることもあるので、教科部会・学年部会ごとに役割を分担するとよい。

(巻末資料「授業研究会準備シート②」P33参照)

【授業記録に係わる分担の例】

- ・映像記録係……授業展開の撮影（定点・児童の活動）
- ・写真記録係……板書、児童生徒の活動、教師の動き、ノートや作品、教材・教具
- ・筆記記録係……主な発問、児童生徒の反応等

【研究協議会に係わる分担の例】

- ・協議会全体の進行
- ・研究概要の説明
- ・分科会の進行
- ・グループ協議の進行（ファシリテーター）
- ・協議内容記録
- ・講師案内

当日は、特別日課となることが多いと思います。児童生徒や保護者への周知や配慮も忘れずに行えるといいですね。

当日の日程等は、教務主任と連携して、計画していきたいと思います。

【それ以外の分担の例】

- ・講師対応（駐車場、玄関、控室の準備）
- ・授業展開学級以外の学級への対応



(2) 授業参観の視点の共有

授業研究会の日程が決定したら、研究推進委員会等の組織を活用し、授業研究会での参観の視点を事前に決めておく必要があります。参観の視点を共有し、参加・体験型の研究協議会を行い、話し合いを深めていきましょう。

取組例 仮説等に基づき視点を共有する

○研究主題や仮説に基づき、授業で検証すべき視点を決定する。

指導案の中に明記することで、事前に参観者への周知を図ることができます。



【授業参観の視点の例】

[本時の目標と仮説との関連]

- ・分数と小数の混合計算の問題解決の方法を考え、説明することができるようにするために、自力解決に向けて、分数と小数どちらかに揃えるという視点を持たせることができたか。
- ・分数と小数の表し方に着目して考え、説明することができるようにするために、ペアで考えを伝え合い、その後全体に発表する場を設定したことは効果的だったか。

(※研究協力校の実践より)

取組例 児童生徒の学びの姿を見取る

授業を検証するために、参観者はできる限り、授業の記録を残しておく必要がある。授業は教師の指導が児童生徒の姿に反映されるため、参観者は児童生徒の学びの姿を見取ることが大切である。

○児童生徒の姿などから観察する着眼点を共有する。

児童生徒の姿などから直接捉えられること	○表情や学ぶ姿勢 ○しぐさ（視線 等） ○発言やつぶやき ○友達との関わり ○ノートやワークシートの表現 等
児童生徒の姿などから推測できること	○どこで変容したのか ○何がきっかけで変容したか ○何に気付いたのか ○どこでつまづいているのか ○何に困っているのか

○授業参観は、児童生徒の姿や友達との関わりが確認できる場所（教室の側面または前方）から行う。

○いつ・だれが・どんな場面で・どんな発言や動きをしたかを具体的に記録する。

アクティブ・ラーニング研修プログラムモデル
～主体的・対話的で深い学びの実現のために～

【独立行政法人教職員支援機構】

授業を充実するための授業改善の手がかりとして、事前協議や研究協議などについての動画解説やワークシートが掲載されています。ぜひ参考にしてみましょう。

(URL : <https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/>)



(3) 指導案の検討

授業者は、児童生徒の実態を把握し、指導案を作成していきます。指導案検討は、限られた時間の中で効果的に行うとともに、達成手段や手立ての検証となる授業展開であるかを十分に協議していきましょう。

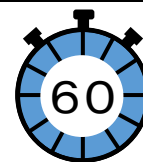
指導案作成については、巻末資料「指導案参考例（道徳）」（P34、35）や「小学校教育課程の展開」（千葉県教育委員会）を参考にするのもいいですね。



取組例 指導案検討を1時間程度で行うプログラム

指導案検討では、協議の視点を明確にし、1時間程度で行えるプログラムを作成するとよい。

- 単元のねらいと教材観について説明と質疑応答（15分）
- 単元計画の説明と質疑応答（15分）
- 本時の学習指導過程の説明と質疑応答（20分）
- 本時のポイント場面と授業参観の視点の確認（10分）



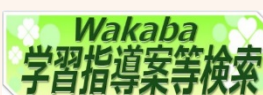
付箋を使った「拡大指導案」等の思考ツールを活用し、検討する方法もあります。

【指導案検討の視点の例】

- 児童生徒に身につけたい力は明確になっているか。
- 目標を達成するための単元構成や指導内容になっているか。
（児童生徒の実態を踏まえて）
- 授業研究や日常の授業実践の中での成果や課題を生かしているか。
- ☆その他、授業者が検討してもらいたい点について話し合う。



過去の指導案等を基に指導観や児童生徒の実態を加味し、作成していくことも有効です。
千葉県総合教育センターWebサイトの「Wakaba（学習指導案等検索）」も参考にしなね！



指導案作成者は、1週間前には検討会参加者に指導案を渡しておきましょう。

参加者は事前に目を通し、誤字脱字を含め、気が付いたことを指導案に書き込んでおき、検討会へ参加しましょう。

参加者に指導案検討の流れと時間配分を知らせておくことで、時間を意識して話し合いを進めることができます！

取組例 模擬授業や事前授業の実施

指導案にそって、模擬授業（授業者以外の教員が児童生徒役）や事前授業（同学年の他学級で実際に授業を行う）を行い、研究主題の検証となりうるか、児童生徒の学習に有効であるか等を検討し、修正していく。

- 課題の提示、教材の使用、発問、板書などの授業の進め方が児童生徒にとって有効か確認する。
- 1単位時間の全てを行うのではなく、導入の過程や発問など指導の手立ての部分的な実施も可能である。

こんな学校見つけました！



指導案の検討

～指導案検討の事例～

全体研修会で、指導案検討会を次のような流れで実施した。授業研究会当日の講師も指導案検討会に参加していた。

1 授業者から（５分）

授業展開について、指導案検討会で協議してほしいこと等を話す。

※ここで司会者から配付物の確認グループ協議等の話合いの手順、時間の提示があった。

授業者から、話し合っていてほしいことが提示されていたので、協議の視点が明確になっていました。



2 グループでの検討（２０分）

学年単位でグループ（各グループ４～５名）を作り、ファシリテーターの進行で、指導案の検討を行う。

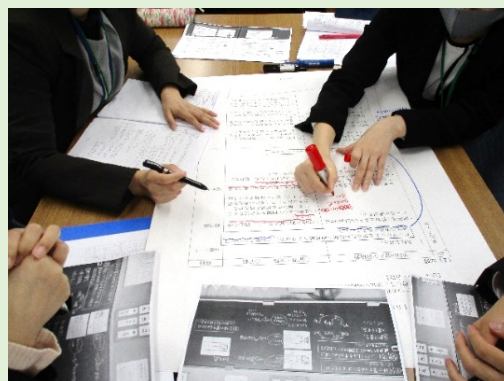
※教科書や板書の写真を活用し、拡大指導案に意見を書き込みながら話合いを進めていた。

（グループごとの準備物）

- ・ 拡大指導案 ・ 板書の写真
- ・ 教科書 ・ タブレット
- ・ マジック



司会者が、しっかりと時間を指示し、短い時間の中でも、スムーズに指導案検討を行っていました。



グループでの検討

3 グループごとの発表（１０分）

意見を書き込んだ拡大指導案をタブレットで撮影し、プロジェクターでスクリーンに映し、各グループが発表する。



グループごとの発表

4 講師指導（１０分）

担当学年や経験年数にとらわれることなく、全教職員が積極的に参加し、活発な話合いが行われていました。



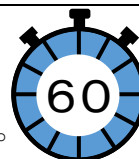
タブレットやプロジェクターなどのＩＣＴ機器を効果的に活用していました。

(4) 授業研究会の実施（授業展開・協議会）

参加・体験型の研究協議会を企画・運営し、参加者全員が意見を出し合うことができ、授業者も参観者も共に学べるようにしていきましょう。

取組例 研究協議会の進め方

限られた時間の中で、効果的に協議を進めるために、協議会での役割や流れを確認しておくことが大切である。



①全体で研究協議会の目的（テーマ）、ねらい、流れ（時間）等を確認する。（5分）

②授業者が本日の授業について説明する。（5分）

・「研究仮説に関すること」「授業全般に関すること」など視点を絞り、意見や助言をもらいたい点等を話す。



③授業参観の視点に基づき気付いたことを付箋に書く。（5分）



④グループ協議を行う。（30分）



⑤全体協議を行い、共有する。

（15分）

- ・グループで話し合った内容を代表者が発表する。
- ・グループ協議の成果物に加え、ホワイトボード、ICT機器も活用する。
- ・課題をまとめ、改善策を全体で協議する。

⑥講師や管理職等から指導・助言を受ける。（15分）

⑦授業研究会から学んだことを各自が振り返る【省察】。（5分）

- ・自己の課題も明確にし、日常の授業実践に生かしていく。

授業展開中や研究協議会前など、事前に付箋に記入しておく方法もあります。

グループ協議では、グループごとにファシリテーターが進行していきます。



授業研究会前日までに「研究協議会の進め方」を研究だよりや掲示物で参加者に伝えられるといいですね！

第1回校内授業研究会当日の動きについて

【授業展開】

	時間	場所	授業者
4時間目	11:25～12:10	1年1組	〇〇
5時間目	13:20～14:05	多目的室	〇〇

【分科会の流れ】

- 14:30～14:35 1 はじめの言葉
2 講師紹介
14:35～14:45 3 授業者より
14:45～15:15 4 グループ協議
15:15～15:30 5 グループ発表
15:30～15:50 6 講師指導
7 終わりの言葉

【その他】

- ・会場準備（前日の放課後みんなで）
- ・批評箋、付箋、教室案内札（〇〇、〇〇）

★役割分担★

- ・写真記録→1年（〇〇）、4年（〇〇）
- ・司会→低学年（〇〇）、高学年（〇〇）
- ・ファシリテーター→低学年（〇〇、〇〇）
高学年（〇〇、〇〇）
- ・研究協議記録→低学年（〇〇）、高学年（〇〇）

【全体会の流れ】

- 16:00～16:15 1 はじめの言葉（〇〇）
2 分科会からの報告
16:15～16:30 3 講師全体指導（〇〇先生）
4 終わりの言葉（〇〇）

★役割分担★

- ・司会→〇〇
- ・全体会記録→〇〇



分科会を行う場合は、右のような流れで行うこともできます。

取組例 研究協議会の形態の工夫

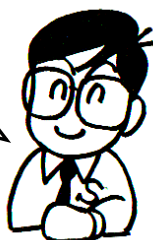
参加者は、担当学年や経験年数にとらわれることなく、関わり合いながら協議を進めることで、研究協議に主体的に取り組むことができる。

研究協議の視点にそって、限られた時間で効果的・効率的に研究協議を進めましょう。それにより、参加者の研修への意欲や満足度が高まります。



○グループ協議の編成を行う。年齢、男女、教科などバランスを考慮し、全教職員の主体的な参加を呼び掛ける。

中・高等学校では、異なる教科担当者でグループ編成をすると、教科の専門を超えて協議できます。



時には、同年齢でグループ編成をすると、意見を出しやすく、協議が活性化し、新たな発想や実践に結びつきやすくなると考えられます。

○ファシリテーターが進行役を務める。ファシリテーターは、協議の中心的な立場でプロセスを管理し、チームワークを引き出し、そのグループの成果が最大になるように支援する。

研究協議会の議論が深まるかどうかは、グループ協議におけるファシリテーターの役割が大きく影響します。ファシリテーターは、限られた時間の中で効果的・効率的にグループ協議を進めていくことが大切です。

最初は、経験のある教員が務め、協議会を重ねるごとに、若手教員にも役割を担わせるようにしていきましょう。



ファシリテーターについては、巻末資料「ファシリテーターの役割」（P 36）を参考にしてください。

○主体的な参加や協議の充実を図るために、「拡大指導案」「Yチャート」「マトリックス」等の思考ツールを目的に応じて活用する。



次のページからそれぞれの思考ツールを使った実践例等を紹介します。

各ページのQRコードを読み込むと、実践例の動画（ダイジェスト版）が見られます。ぜひ参考にしてください。

【拡大指導案を活用して】



- 指導案に沿って話し合いができるので、意見をまとめやすい。
- 本時の授業を指導者の意図を踏まえて検討できる。
- ▲本時中心の協議には向いているが、単元全体の協議には不向きである。



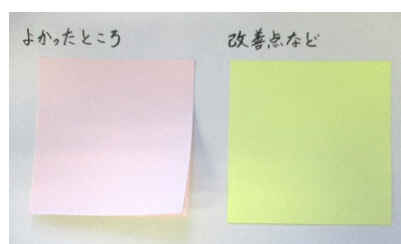
研究協議会
～拡大指導案を活用して～

<事前準備>

- ①研究だより等で研究協議会の流れや、付箋を使ったグループ協議について参加者に周知する。
- ②拡大した指導案（模造紙程度の大きさ）や付箋を用意する。

<当日>

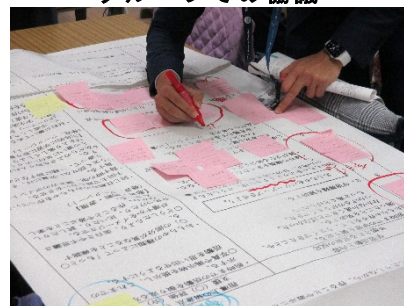
- ①授業を参観しながら、協議の視点に沿って付箋を記入する。
- ②ファシリテーターの進行により、指導案に沿って導入から協議を行う。参加者は意見を言いながら付箋を貼っていく。同じ意見の場合は、順番を待つことなく、近くに付箋を貼って発言していく。
- ③ファシリテーターは、出された意見を比較しまとめたり、図で関連性を表したりしながら話し合いを進めていく。
- ④最後に、その他気づいた点等を発言していく。



用意された付箋



グループでの協議



拡大指導案を使っでの協議



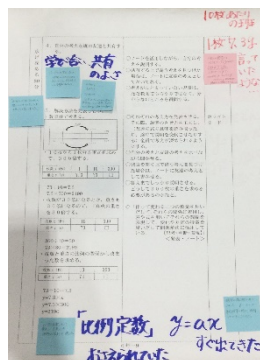
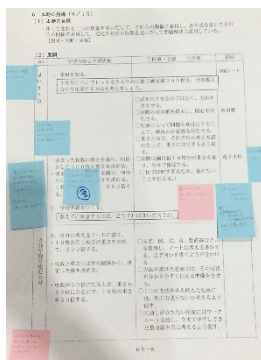
廊下に貼られた拡大指導案に付箋を貼る様子

指導案の流れに沿って話し合いを進めることで、本時の授業を中心に協議をすることができます。そのため、参加者が意見を出しやすい形態です。これから、参加・体験型での研究協議を始めようとしている学校におすすめです。

外部からの参観者や研究協議に参加できない方に意見をもらうために、拡大指導案を廊下に貼り、付箋を貼ってもらう方法もあります。



【拡大指導案（ICT）を活用して】



公開研究会等で、他校の先生方等外部の方も参加する時の研究協議会の流れを紹介します。



公開研究協議会
～拡大指導案（ICT）を活用して～



- ① 参観者に、指導案や研究協議で使う付箋、批評箋等を配付する。
- ② 授業を参観しながら、協議の視点に沿って付箋を記入する。
- ③ 司会の進行により、研究主任から研究主題や研究実践について報告する。
- ④ 授業者から、授業についての説明や協議会で話し合っ欲しいことについて説明する。
- ⑤ 研究主任より、協議の視点や時間配分、発表の順序や方法等について説明する。
- ⑥ 各グループのファシリテーターの進行により、授業の流れに沿って意見を言いながら拡大指導案に付箋を貼っていく。また、良かった点や改善点についてまとめた意見を、直接マジックで拡大指導案に書き込んでいく。
- ⑦ 各グループで意見をまとめたり、拡大指導案をタブレットで撮影したりして発表の準備をする。
- ⑧ 意見を書き込んだ拡大指導案をスクリーンに映しながら、グループごとに発表する。他校の先生方の意見も含めて発表するようにする。
- ⑨ 講師より指導を受ける。



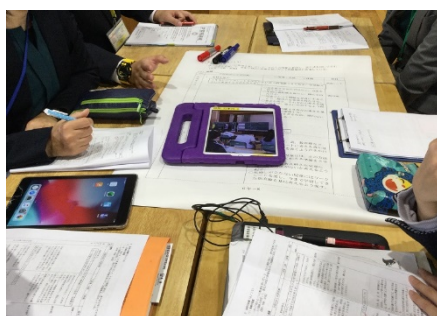
用意された付箋や批評箋



グループでの協議



グループごとの発表



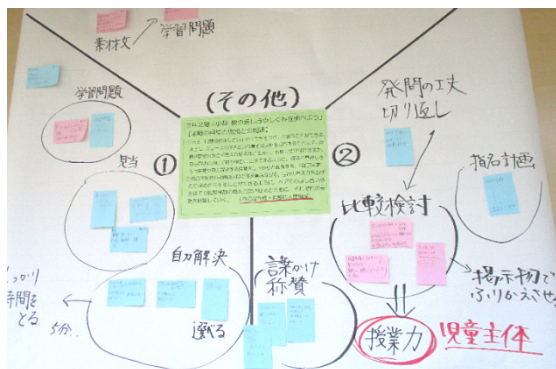
撮影した画像を見ながらの協議

グループでの発表の他、グループごとの協議でも、タブレットで撮影した板書を参考にして協議を進めるなど、ICT機器を効果的に活用していました。

時間配分を意識して、協議の視点について、話し合いを進めていくことが大切ですね。



【Ｙチャートを活用して】



- 協議の視点が焦点化される。
- 研究主題や仮説と結びつけやすい。
- 意見を関連付けながら図示しやすい。
- ▲授業参観前に、必ず視点を共通理解しておく必要がある。



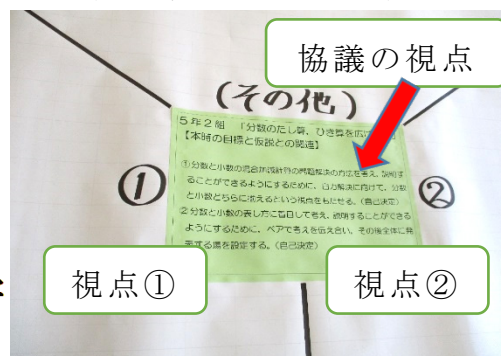
研究協議会
～Ｙチャートを活用して～

＜事前準備＞

- ①研究主題や研究仮説と本時の授業との関連を意識して、研究協議の視点を決めておく。
- ②指導案や研究だよりにより研究協議の視点を明示し、参観者が協議の視点を意識して授業を参観できるようにする。
- ③模造紙（またはホワイトボード）に協議の視点に沿って付箋を貼れるように準備する。

協議の視点の数によって、「Ｙチャート」や「Ｘチャート」を選ぶといいですね。

協議の視点を、Ｙチャートに貼ってあると、話し合う時に便利です。



Ｙチャートの使い方



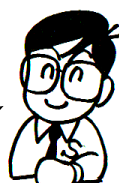
参観しながら付箋に記入

〔水色の付箋：成果〕
〔ピンクの付箋：課題〕

＜当日＞

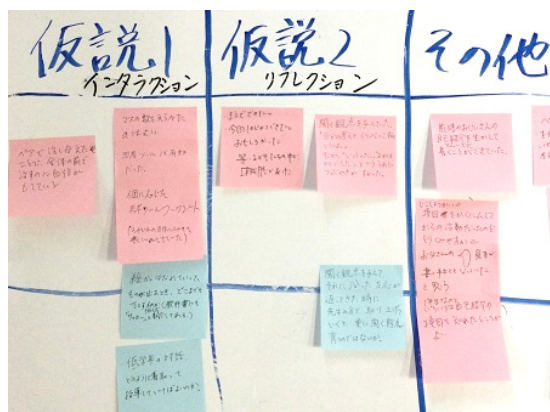
- ①授業を参観しながら、協議の視点に沿って付箋を記入する。
- ②ファシリテーターの進行により、視点ごとに協議を行う。参加者は意見を言いながら付箋を貼っていく。同じ意見の場合は順番を待つことなく、近くに付箋を貼って発言していく。
- ③ファシリテーターは、出された意見を比較しまとめたり、図で関連性を表したりしながら話し合いを進めていく。
- ⑦Ｙチャートを使ってグループで協議したことを発表し合う。

研究主題や研究仮説と関連して、授業についての協議が行われるので、研究の達成手段の有効性を検証しやすい協議の形態です。



グループごとの協議

【マトリックスを活用して】



- 協議の視点が焦点化される。
- 研究主題や仮説と結びつけやすい。
- ▲授業参観前に、必ず視点を共通理解しておく必要がある。



研究協議会
～マトリックスを活用して～

<事前準備>

- ①授業者は、指導案に仮説との関わりや手立てを記入する。
(参観者に、仮説との関わりや手立てが、研究協議会での話合いの視点になることを周知する。)

研究の視点ごとにマトリックスを使って意見をまとめていく方法です。話合いの視点を明確にし、出された意見を視点ごとにまとめていく点は、Yチャートと共通点が多い形態です。



<当日>

- ①ファシリテーターが協議の視点や時間配分、付箋の活用の仕方を確認する。
- ②協議の視点に沿って付箋に意見を記入する。
- ③ホワイトボード等に視点を記入し、線を引いてマトリックスを作成する。
- ④ファシリテーターは、協議の視点ごとに参加者に意見を求めながら協議を進めていく。



グループごとの協議

協議の時のポイントとして、参加者は意見を言いながら付箋を貼っていくことや、同じ意見の場合は、順番を待つことなく近くに付箋を貼って発言していくことが大切です。



- ⑤ファシリテーターは、出された意見を比較しまとめたり、図で関連性を表したりしながら話合いを進めていく。
- ⑥授業者が複数の時は、ホワイトボード等を複数用意して授業ごとに話合いを繰り返す。
- ⑦まとめたホワイトボード等を使って、グループで協議したことを発表し合う。



ホワイトボードを使うことにより、模造紙等をその都度準備する必要がなく、事前の準備が少なくなります。

【時系列シート】

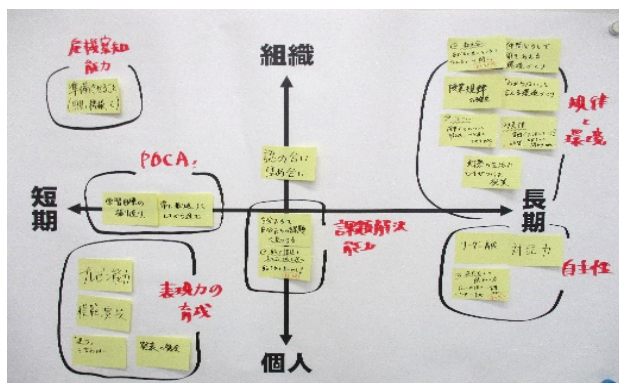
時間	1:30	1:40	1:50	2:00	2:10
変容 学びが成 立してい た点					
気になっ た点・疑 問点					

○授業全体的を見て、児童生徒の変容を追うことから授業を考えていくことができる。
▲協議を進めるには、ファシリテーターの役割が重要となる。

時系列で、児童生徒を中心に観察し、変容を追うことを通して授業について考えていく方法です。教師の指導が児童生徒の姿に反映されるので、その姿をもとに協議していくことができます。

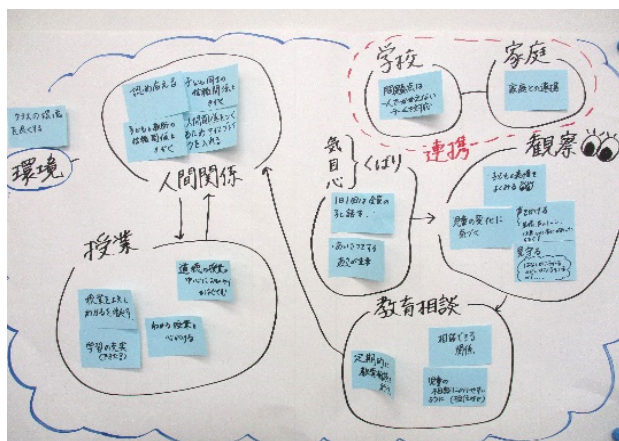


【概念化シート】



○協議の視点を構造化し、整理できる。
○4つの場所に整理することで、成果や課題が捉えやすい。
▲改善策や手立て、新たな視点を共有する必要がある。

【KJ法の要素を取り入れた分類】



○多様な意見を整理・分類し体系化しやすい。
○自由な発想を取り入れることができる。
▲話し合いが焦点化されにくい為、話し合いの視点を明確にしておく必要がある。



詳しくは、千葉県総合教育センターが発行した「すぐに使える 校内研修の手法とツール」をご覧ください。



(5) 授業研究会のまとめ

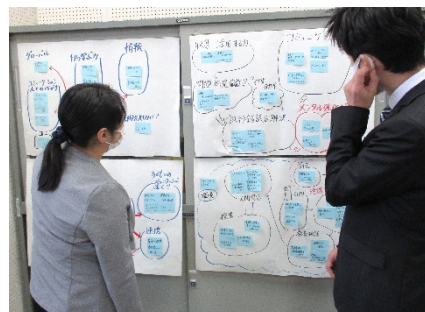
研究協議会を通して確認された成果や課題は、今後の指導改善の手がかりになるので、全教職員で共有する場を設定していきましょう。

取組例 授業研究会のまとめ方

○研究報告会を行う。

- ・研究協議会を分科会形式で行った場合は、全体会を設定したり、職員打合せや職員会議等の時間を活用したりして共有する。

○研究協議会でまとめたシート等をそのまま職員室等の掲示コーナー（研修コーナー）等に掲示して共有する。

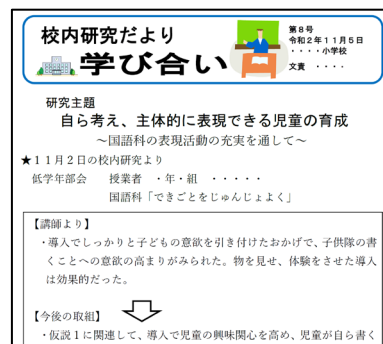


職員室等に掲示して共有

○「研究だより」を発行し、共通理解を図る。



研究協議会を分科会ごとに行った時などは、話し合われた内容や講師からの指導、今後どのように取り組んでいくのか等について、共通理解を図ることが大切です。



研究だよりの例

○研究協議会の話し合いを受け、指導案やワークシート等を修正し、次年度へ生かす。

修正した指導案やワークシートを使って、他の教員が、再度実践してみてもよいですね。



授業で使用した掲示物や提示資料等は、次年度も使えるように保存しておくこともおすすめです。

○授業研究会を通しての参加者の学びを共有する。

- ・参加者自身が授業研究会で学んだこと、取り組んでいきたいことなどを付箋等を書いて掲示し、全教職員で共通理解を図る。

○研究協議会など改まった場所だけでなく、普段の会話の中で授業改善が話題になるような雰囲気づくりを心がける。



授業改善のポイントについては、「授業改善のためのセルフチェックシート（千葉県教育庁南房総教育事務所）」を活用するのもいいですね。

(URL : <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-nanbou/shidoushitsu/index.html>)

2 日常の授業実践に生かそう

授業研究会で学んだことと自己の課題を踏まえ、日常の授業実践に生かしていきましょう。また、相互授業参観等を実施する際は、教職員の負担感を減らせるように、開催時間や方法・内容を精選して取り組むことが大切です。研究組織を生かしながら、個人やグループ単位など、学校の実態に応じて授業実践に取り組んでいきましょう。

(1) 相互授業参観

取組例 学年や教科部会等での相互授業参観

- 相互に授業参観をし、改善点を探る。
- 同じ題材で指導案(略案)を作成し、各学級で実践した後、比較検討する。
- 同じ領域の題材を異なった学年で実践し、発達に即した指導法を検討する。

(2) 手軽に行える授業参観

取組例 授業の録画映像を活用

- ①授業者が自分で授業のすべて、または一部を録画する。
- ②授業展開後、グループで録画映像を視聴し、協議する。

録画した自分の授業を客観的に見ることも大切です。



取組例 ポイント授業参観

- ①授業者が簡単な授業展開案と授業改善の視点を記入したシートを参観者へ配付する。
- ②参観者は、10～15分程度の部分的な授業参観をし、気付いたことを付箋に書いて授業者に渡す。
- ③授業者は、集まった付箋を整理し、考察した内容をシートの考察欄に記入する。
- ④研究協議は、必要に応じて行う。



日常的にお互いの授業を参観できる雰囲気づくりをしていきましょう。
短い時間でも繰り返し取り組めるといいですね。

5年〇組 算数 指導者 〇〇〇〇	
【単元名・本時の目標】	
〇〇〇〇〇〇……	
【本時の展開】	【授業者考察】
1 見出す 〇〇〇…〇〇 2 調べる 〇〇〇…〇〇 3 深める 〇〇〇…〇〇 参観 8:50～9:05 改善の視点 ・〇〇〇〇 ・〇〇〇〇 4 まとめあげる 〇〇〇…〇〇	■ ■ ■ ■

ポイント授業参観用シート例

取組例 板書を中心にした略案の活用

「板書を中心にした略案」を使って、日常的に授業参観を行う。

10/9 (金)

〈じゅんぴするもの〉

- ・ 送風機
- ・ 風で走る車

〈実験するときの注意〉

- 送風機のいちや向きを変えない。
- スタートのいちを同じにして手でおさえ、風が出てから放してスタートする。
- きよりはをはかるときは、目もりの近いほうを読む。

※実験の注意事項を確認し、黒板の左端に掲示しておく。

⑦ 風の強さをかえると、車の走るきよりはかわるのだろうか。

⑧ 風が強いときは車の走るきよりは長く、風が弱いとき車の走るきよりは短い。
風が強いときは速くたくさん走る。 風が弱いときはゆっくりと少しだけ走る。

⑨ 送風機を使って、強い風、弱い風を出して車に当てる。
強い風、弱い風それぞれ3回ずつ調べて、けっかを記ろくする。

送風機

スタートのいち

	弱い風するとき	強い風するとき
1回目	3 m	6 m
2回目	3 m	7 m
3回目	4 m	6 m

⑩ 強い風を当てたときのほうが弱い風を当てたときより車は長いきよりは走る。

※学習問題は児童の言葉で表現する。

※送風機の使い方を教えむとともに、注意事項の確認をする。

※実験を行う場所として、多目的ホールの用意をしておく。

〈気づいたこと〉

- ・ 強い風のとときは速く走った。
- ・ 強い風のとときは車を手でおさえていると大きな力を感じた。
- ・ 強い風のとときは風の力もすごい。

※実験の結果に基づいて話し合うように、例を示して指導する。

※学習問題を意識させながら、児童の言葉でまとめるようにする。

- ・ 留意点
- ・ 支援の手立て
- ・ 注意事項
- ・ 時間配分
- 等を記載する。

気付いたことは後から付け加えて記入する。

板書計画を活用することで、時間をかけずに略案を作ることができます。

「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を、授業改善を行うための参考資料として活用してみましょう。(URL: <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/zissenmoderu/moderupuro.html>)

取組例 授業振り返りシートの活用

日常の授業実践を参観した後に協議の時間を十分確保できない場合、協議する内容や参観の観点を示した授業振り返りシートを活用することで、短時間(15～20分程度)で効率的に協議を行うことができる。

授業の振り返りシート

単元名		期間		担当者	
目標					

※改善が必要な観点のみ△を記入し、改善案を具体的に記述する。

月日	観点	評価	改善	児童生徒の変容/キャリア発達の様
	教材・教具			
	場の設定			
	教師のかかわり			
	特記事項			
	教材・教具			
	場の設定			
	教師のかかわり			
	特記事項			
	教材・教具			

このような「授業振り返りシート」を活用すると、児童生徒の変容をつかみ、さらに実践を蓄積することができます。

予め終了時刻を決めておいたり、スタンディング会議にする等形態を工夫したりするといいですね。

プロセス3 研究のまとめ

成果と課題を明確化し、研究のまとめをしていく過程。

児童生徒の変容を把握し、それを基に研究主題等に対する成果と課題を明らかにしていく。研究の記録を次年度以降活用できるように、データとしてまとめたり研究報告書を作成したりしていく。

1 児童生徒の変容を把握しよう

研究の実践の積み重ねや児童生徒へのアンケート、学校評価等を基に、児童生徒の変容を把握しましょう。

取組例 児童生徒へのアンケートを作成する

児童生徒の変容を把握するための授業アンケートを作成するときには、達成手段や手立ての効果を検証するために、研究目標や研究仮説にある児童生徒の変容等と関連付けてアンケート項目を作成していくと良い。

A (手立て、指導法) をすれば、
B のような変容の姿が表れ、
C (目指す児童生徒像) になるだろう。

< 研究仮説 1 >

- A (学びの手順や方法を明確にし、
探究的な学習を進めれば、
- B (自己の課題を解決しようと
主体的・協働的に取り組むようになり、
- C (学んだことを日常生活に生かす
実践力が身に付くだろう。)

< 研究仮説 2 >

- A (地域の人々や自然、隣接する施設などと
進んで関わる体験的活動を取り入れた
学習をすれば、
- B (地域の一員としての自覚や愛着、
支えてくれる人々に感謝の気持ちを
もてるようになり、
- C (よりよい自己の生き方を見出すことが
できるだろう。)

アンケート項目【例】

地域の自然や行事、活動に興味、関心をもてましたか。
地域の人たちと交流して楽しかったですか。
調べたいことやわからないことがあったとき、自分で解決しようと調べたり、探したりする方法は増えましたか。
学習課題(調べること)を自分で決めることができますか。
調べた情報を仲間分けすることができますか。 (必要な情報を選べますか。)
調べた情報から、自分の考えをもつことができますか。
調べた情報を表やグラフなどにまとめることができますか。
友達と自分の意見の違いや同じところに気付くことができますか。
先生の話や友達の話聞いて、内容を理解することができますか。
グループで話し合うとき、自分の意見や考えを話すことができますか。
グループで友達と話し合うのは楽しいですか。
クラスの前で発表することはできますか。
調べた情報を友達にわかりやすく発表する(伝える)ことができますか。
学習したことを普通の生活の中で使っていますか。
自分の将来や進路について考えていますか。

研究仮説から考えた場合、B、Cに示されたように、児童生徒が変容しているかを基に調べていく。そのことによって、Aの手立てが効果的だったか検証していくことができる。
(※研究協力校の実践より)

取組例 アンケートを基に児童生徒の変容を把握する

授業アンケートを研究の実践前と実践後に行う。2つのアンケートの結果を比較して、児童生徒の変容を把握する。授業アンケートを実施する際は、S Q S（アンケートの作成・集計システム）を使うと便利である。

国語アンケート【高学年用】

このアンケートは、国語の学習についてあなたがどのように思ったり感じたりしているか答えてもらうものです。学校の成績には入りません。あなたの気持ちに一番近いものを答えてください。

(1) 国語について（各項目、1つずつマーク）

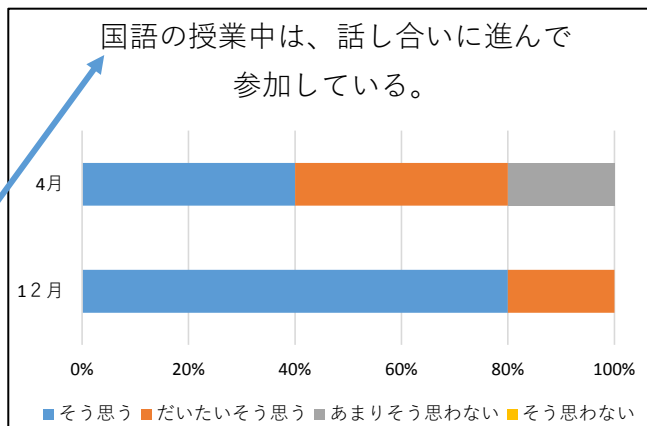
	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1 国語の学習は、好きだ。	☐	☐	☐	☐
2 読書は好きだ。	☐	☐	☐	☐

(2) 国語の力には、5つの力があります。
1. 読む力 2. 書く力 3. 話す力 4. 聞く力 5. 言葉の力
あなたはどの力をつけたと思いますか。あてはまるものすべてにマークをつけてください。
☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

(3) 国語の授業（話し合い・ふり返し）について（各項目、1つずつマーク）

	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1 話し合う活動は、好きだ。	☐	☐	☐	☐
2 国語の授業中は、話し合いに進んで参加している。	☐	☐	☐	☐

S Q S を使ったアンケート



実践前と実践後の比較



S Q S については、総合教育センターWebサイトにアンケート用紙作成から集計まで簡単にできるソフトがあり、ダウンロードできます。ぜひ活用してみてください！！



取組例 日々の授業の積み重ねから、児童の変容を把握する

日々の授業の中の児童生徒の様子や、児童生徒の書いたノートやワークシート、自己評価カードなどから変容を把握することができる。

授業のまとめとして、ノートに自分の言葉でまとめを書かせたり、個々が学習を振り返ることができる簡単な評価カードを作成し記入させたりすることで、児童生徒の変容の把握ができますね。

児童生徒の変容を把握する手立てとして、ワークシートを工夫して作成し、活用することも大切ですね。

座席表や名簿などを使い、授業の中での児童生徒の変容（発言内容や主体的に学習に取り組む態度等）を簡単に記録していく方法もありますね。

実践の過程で、計画的に評価を取り入れていきましょう。



2 成果と課題の明確化を図ろう

成果と課題をまとめるときは、児童生徒の変容を根拠にして、達成手段や手立てが有効であったかを振り返ります。多くの教職員の意見を反映することが大切です。

研究主題や目標、達成手段が明確で、何を明らかにしたいかが具体的であればあるほど、成果や課題も明確に示すことができます。



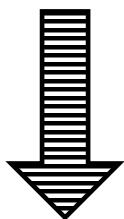
成果や課題が明確になると、次年度の研究の方向性が見えてきます。

取組例 各部会で話し合ったことを基に研究推進委員会で話し合う

学校としての成果と課題をまとめる際に、各部会で話し合った成果と課題を基に研究推進委員会で話し合っていく。

各部会での話し合い

今までの授業研究会のまとめを持ち寄り、部会としての成果と課題をまとめる。（仮説等との関連を考えて、成果と課題を付箋にまとめる。）



授業研究会ごとにしっかりまとめてあると、ここでの話し合いが効率的に進められます。



研究推進委員会でまとめる

各部会で話し合った成果と課題を持ち寄り、学校としての成果と課題をまとめていく。

- ①研究推進委員会（管理職、教務主任、研究主任、各部会1名等）の中で、学校としての成果と課題について、話し合う。その際に、マトリックスを使いグループ協議を行う。各部会の推進委員が、部会でまとめた成果と課題を付箋を貼りながら話していく。意見交換しながら、内容が同じもの近いものをグループ化し見出しを付けていく。
- ②研究推進委員会で話し合ったことを基に、研究主任が学校としての成果と課題をまとめる。



研究推進委員会
～成果と課題の明確化～

3 研究報告書（研究紀要）の作成をしよう

校内での実践を記録に残し、次年度以降に活用するために研究報告書を作成しましょう。学校のWebサイトへの掲載や外部への配布等により、研究を広めたり、意見をもらったりすることができます。

取組例 研究報告書のまとめ方

研究報告書を、次のような項目でまとめることが考えられる。次年度以降のためにも、修正した指導案や授業で使ったワークシートを整理して、すぐに使えるようにしておくが良い。

- | | | |
|---|---------------|------------------------------|
| ア | 主題設定の理由 | (どのような理由、目的で研究に着手したか) |
| イ | 研究目標 | (研究を通して、何を明らかにしようとしたか) |
| ウ | 達成手段や手立て | (どのような手段や手立てをつかって、検証しようとしたか) |
| エ | 研究の計画 | (どのような方法、順序で、研究をすすめようとしたか) |
| オ | 研究の実際 | |
| | ・指導案やワークシート | |
| | ・授業ごとの成果と課題 | |
| カ | 成果と課題 | (何が明らかになり、何が課題として残ったか) |
| キ | 次年度以降活用できる資料等 | (修正した指導案やワークシート、掲示物等) |
| ク | 参考資料一覧 | (引用や参考文献を掲げる) |

本文は、簡潔に
わかりやすくま
とめましょう。



指導案やワークシートは、研究協議後、課題となった点を修正したものも掲載することで、次年度、有効活用を図ることができます。

取組例 研究報告書をデータでまとめる

研究共有フォルダを作成し、研究報告書の形式でデータを整理する。

<データでまとめる利点>

- ・印刷・製本の負担が軽減できる。
- ・すぐに必要なデータを探することができる。
- ・指導案などを全教職員で共有・活用できる。
- ・データを蓄積しやすい。

余白、行間、字体、ポイント等の形式をしっかり決めておくことで、必要な時にプリントアウトし、製本しても、形の整った見やすい報告書になります。



データでまとめてあっても、製本したものを数部作っておくと、いざ！というときにすぐに使えて便利です。

- 02 各学年
- 03 授業研究
- 04 学習資料
- ▼ 05 研究報告書
 - ア 主題設定
 - イ 研究目標
 - ウ 達成手段や手立て
 - エ 研究の計画
 - ▼ オ 研究の実際
 - a 指導案
 - b ワークシート
 - c 成果と課題
 - ⋮

プロセス4 次年度に向けて

次年度に向けて、研究の成果と課題（プロセス3）や学校の実態等に基づいて、次年度の研究の方向性を決めていく過程。

成果については、日々の授業実践で活用していくことを共通理解する。校内研究の進め方についても振り返り、次年度に生かしていく。

1 次年度の研究の方向性を明確にしよう

研究の成果と課題や学校の実態等に基づいて、次年度の研究の方向性を決めていきましょう。日常の授業実践で活用していくことと、次年度の研究を通して追究していくことを整理していきます。また、校内研究の進め方についても評価を行い、次年度に生かしていきます。

研究の成果と課題だけでなく、国や県などの教育施策に対応した研究の方向性を考えたり、研究指定を受け、研究教科や研究の方向性を考えたりする場合があります。



取組例 成果と課題を次年度に生かす

成果と課題を生かしていくために、以下のように、成果を次年度の共通取組事項にしたり、課題から次年度の研究の方向性を検討したりする。

成果

プロセス・ゴールイメージをもつことで、子供たちが学習に主体的に取り組むことができた。



「今後も子供たちが主体的に取り組むことができるように、授業の始めに子供たちに学習のプロセスやゴールイメージをもたせること」を全校で共通理解し、取り組んでいく。

課題

理解の定着や次への意欲を高めるためのリフレクション（振り返り）に取り組んできたが、学習活動にあった評価の観点の見定め方がなかなかできなかった。



次年度は振り返りの向上と評価に重点を置き、国語科の研究に取り組む。

（※研究協力校の実践より）

取組例 校内研究の進め方について、評価を基に改善策を協議する

研究主題や研究目標などについて話し合うとともに、校内研究の進め方についても評価を行い、改善策を検討していくことは大切である。

- ①校内研究評価表を基に、校内研究の進め方について一人一人自己評価を行う。
（巻末資料「校内研究評価表（例）」P37参照）
- ②全教職員の自己評価を集計する。
- ③研究推進委員会で、集計結果を基に、次年度どのように改善していくかについて検討する。

（巻末資料「改善のための手立てのヒント」P38参照）

2 研究全体会を開催しよう

研究推進委員会で協議したことを基に、研究全体会を開催します。1年間の研究の成果と課題を確認したり、次年度の研究の方向性について検討したりして、全教職員で共通理解を図りましょう。

事前に研究報告書を読んでおくことが大切です。
特に、学年の系統性を踏まえ、自分の学年に近い学年の成果と課題を読んでおきましょう。



取組例 研究全体会（小学校）の内容

今年度の研究について振り返るとともに、次年度の研究計画について協議を行う。

P27の【取組例 研究推進委員会で話し合う】の続きの取組です。

①研究の方向性について

- ・各部会での話し合いを受け、研究推進委員会でまとめた成果と課題について、研究主任により報告する。



②校内研究の進め方について

- ・事前に行った「校内研究の進め方」の評価の集計結果を基に、研究推進委員会で検討した内容を提案する。
- ・提案に基づき、次年度の研究の進め方について話し合い、全体で共有する。

研究推進委員は、自分の担当部会のメンバーへ事前に提案内容を伝えることで、より効率的に話し合いを進めることができます。



プロセス4は、プロセス1と共通する部分があります。校内研究の年間サイクルを意識し、今年度の成果や課題を踏まえ、次年度の研究へ繋げていきましょう！



このガイドブックを活用して、先生方の満足度が高い、やってよかったと思える参加・体験型の校内研究を、限られた時間で、効果的・効率的に進めていきましょう！



プロセス1 研究の計画・共通理解へ

リンク集(ガイドブック等)

※下記URLよりガイドブック等が表示されない場合は、総合教育センターWebサイトをご覧ください。

〈P1〉全国学力・学習状況調査分析ツール
<https://www.ice.or.jp/nc/kenkyu/gakuryoku/>

〈P9〉カリキュラム・マネジメントサポートブック
<https://drive.google.com/file/d/1VzoA0-hzfGWveW8KnV2r924bIFp0cmtR/view?usp=sharing>

〈P13〉Wakaba (学習指導案等検索)
https://ap.ice.or.jp/_wakaba2013/index.php

〈P21〉校内研究の手法とツール
<https://drive.google.com/file/d/1M2r-8kR51E9z56XIT4eFYWvqj08kxJNB/view?usp=sharing>

〈P26〉SQS (アンケートの作成・集計システム)
https://www.ice.or.jp/nc/?page_id=514

リンク集(動画)

〈P9〉研究主題設定に向けての協議～カリキュラム・マネジメントの実践～
<https://youtu.be/umiIn0za3X0>

〈P14〉指導案の検討
<https://youtu.be/PegG825alu0>

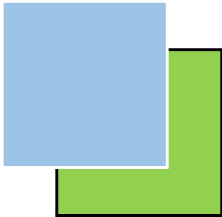
〈P15〉研究協議会～拡大指導案を活用して～
<https://youtu.be/jL-ldeZD8IA>

〈P16〉公開研究協議会～拡大指導案(ICT)を活用して～
<https://youtu.be/wrvGa7aIvXw>

〈P17〉研究協議会～Yチャートを活用して～
<https://youtu.be/Pz3GKvTjj0M>

〈P18〉研究協議会～マトリックスを活用して～
<https://youtu.be/o3Ab8FuiU6Q>

〈P27〉研究推進委員会～成果と課題の明確化～
<https://youtu.be/UVjg7zgWc0k>



卷末資料



授業研究会準備シート①

【全体の役割分担】

○授業の日程・講師等が決定したら、授業ごとに役割分担を確認していきましょう。

月 日 () 授業時間： 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇 (時間目) 協議会 : 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇	授業者： 学級： 場所：
☐ 授業準備の補佐	
☐ 指導案の準備 ・指導案作成 : 月 日 () まで ・検討日 : 月 日 () ・模擬授業 : 月 日 () ・修正後の締め切り : 月 日 () まで	
☐ 指導案の印刷・製本	
☐ 講師との連絡・調整 ・指導案の送付 ・協議会での課題等	
☐ 協議会の準備 ・次第作成 ・ワークショップの資料準備 ・筆記用具 ・記録用紙 ・会場準備	
☐ 記録媒体の準備 (ビデオ・カメラ・ICレコーダー・タブレット等) ・記録方法の確認	
☐ 校内表示	
☐ 授業参観シート	
☐ 協議会で使用する付箋紙	
☐ 当日の役割分担 ※ 授業研究会準備シート② を参考に！	

授業研究会準備シート②

【当日の役割分担】

○授業当日は、時系列で誰が何をするのか、事前に分担を確認しておきましょう。

1 当日の朝

☐ 講師の専用駐車場の確保	
☐ 玄関の準備	
☐ 講師控室の準備	

2 授業開始前

☐ 講師の出迎え・案内・対応	
☐ 授業撮影の準備（ビデオ・カメラ・タブレット等）	

3 授業中

☐ 講師の案内	
☐ 授業展開学級以外の学級への対応	
☐ 授業記録 ※協議会での活用可能 ①映像での記録 ・授業展開の撮影（定点・児童の活動） ②写真での記録 ・板書 ・児童生徒の活動 ・教師の動き ・ノートや作品 ・教材・教具 ③筆記による記録 ・主な発問 ・児童生徒の反応	

4 授業終了後

☐ 講師の案内・対応	
☐ 児童生徒の下校指導	
☐ 会場準備	

5 研究協議会

☐ 協議会全体の進行	
☐ 研究概要の説明	
☐ 分科会の進行	
☐ グループ協議の進行（ファシリテーター）	
☐ 記録 ・発言、指導内容 ・写真撮影	
☐ 講師案内	

6 協議会終了後

☐ 講師の対応	
☐ 会場片付け	

指導案例（道徳）

第○学年○組 道徳科学習指導案（参考例）

ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものを記述する。原則として年間指導計画における主題名を記述する。

指導者 ○○ ○○

- 1 主題名 ○○○○○○○○ ○ー（○）○○○○○
（教材名「○○○○○」 出典「○○○○○」）

主題名の後に内容項目番号と内容項目名を記述する。
（例）友達の気持ちを考えて B（6）思いやり・感謝
※学習指導要領解説「第3章 第2節 内容項目の指導の観点」を参照

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

ア 「主題のねらいを設定する」ために、下記の点に配慮し記述内容をまとめる。

- ・年間指導計画における主題構成の背景などを再確認し、内容項目についての理解を深める。
- ・内容項目をどのように捉えるか、指導者の考えを述べる。このとき、一つの内容項目に複数の道徳的価値を含んでいるものが多いので、どの道徳的価値に着目して授業を行うのかを意識して、指導する道徳的価値に絞って書く。
- ・「ねらい」が、道徳教育上どのような意味をもつか述べる。
- ・「ねらい」が児童生徒の発達段階と、どのような関連をもつか、その年齢に応じてどのような価値があるのか、一般的な事象を含めて述べる。
- ・「ねらい」を児童生徒に身に付けさせる必要性を一般化して述べる。
- ・この時期に指導する必要性について述べる。

イ 以下の点についても、触れられるとよい。

- ・「ねらい」が他学年の指導とどのような関わりをもっているか。
- ・「ねらい」が他の教育活動における道徳教育とどのような関わりをもっているか。

（2）児童生徒の実態について

児童生徒のこれまでの学習状況や実態、教師の願い等について、主題との関係を明らかにする。

- （例）・場面調査または価値観についての事前調査等を行った結果の分析を述べる。
- ・「ねらい」に関する個々の児童生徒の様子を日常観察の結果から分析して述べる。
 - ・「ねらい」に関する個々の児童生徒の様子を学級全体からみて述べる。
 - ・「ねらい」に関する個々の児童生徒の道徳上の問題点を明らかにし、それが、児童生徒のどのような考え方、感じ方等に原因があるのか明らかにする。

（3）教材について

- ・この教材を選定した理由を明らかにする。
- ・あらすじの確認をする。
- ・教材分析をして、どのような価値がどこにあるか明らかにする。
- ・教材分析をした結果として、どこに焦点を当てれば「ねらい」が達成できるか述べる。

（4）指導観

- ・「道徳的価値」「児童生徒の実態」「教材」を踏まえて、児童生徒に道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てるため、どのような手立てをとるか、具体的な構想を書く。
 - ・児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けて記述する。
 - ・特別な配慮を要する当該児童生徒に対する指導の手立てを記入する。
- （例）・学習上の困難さ（自分の気持ちを文字で表現できない）に対して、口頭で答えるなど。
- ・集中、継続することの困難さ（注意持続が短く、態度が変わりやすい）に対して、適度な時間で活動を切り替えるなど。
 - ・他人との関わり方の困難さ（相手の気持ちを想像するのが苦手）に対して、心情理解のため役割を交代して動作化や劇化などを行う。

3 本時の指導

（1）ねらい

ア 「ねらいとする道徳的価値について」のねらいと「教材について」のねらい及び児童生徒の実態から、本時のねらいを設定する。「ねらい」は、端的にわかりやすく表現する。

イ 道徳科の目標から考えると文章表現の最後の部分は、次のようにまとめられる。

- ・～判断力を育てる。
- ・～心情を養う。
- ・～意欲と態度を育てる。

(2) 展開

教材の特性によって発問等の工夫が必要

実物、映像資料、写真、絵、音声、音楽、新聞記事等、多様な資料の活用を図る。

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童生徒の反応	支援及び指導上の留意点 (学習状況の見取りの視点)	資料
導入	○分	1 道徳的価値に対する方向付け 教材に対する方向付け 学習に対する方向付け のうち、一つを書く。	※特別な配慮を要する当該児童生徒については、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた手立てを明記する。	あらすじは、場面絵等を使って、ねらいとする道徳的価値に関わる部分を中心に簡潔に確認する。提示された場面絵はそのまま児童生徒の思考を助ける資料となる。
	○分	2 教材の提示 ・教材を読む。 ・あらすじを確認する。	・教材が長いときは事前に読ませ、あらすじの確認のみとする。	場面絵 写真 ワークシート
	○分	3 教材「○○」についての話し合い ・例えば、教材に対する感想を問い、児童生徒の発言の中から導入の発問の文言を見いだすようにすると、学習意欲が高まる。児童生徒が学習の必要性・必然性を強く意識するようになる。 ・座席の配置を工夫したり、討議形式で進めたり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなどの工夫も望まれる。	・話し合い活動や書く活動、動作化や役割演技などの表現活動を工夫し、多様な意見を引き出すようにする。	書く活動を通して、児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりしながら、自分自身とじっくり向き合うことができるように必要な時間を確保する。
展開	(○分)	<発問の例> ○基本発問 ・中心発問を生かす前後の発問	・弱さ、葛藤につながる場面を捉え、価値につながる部分を発問する。	・なぜそう思うのか、理由を問いたい。「建前」から「本音」につなげるためには、「なぜそう思うのか」という切り返しの発問が有効である。
	(○分)	◎中心発問 ・ねらいに迫るための重要な発問 ・何に気付かせたいのか ・何を考えさせたいのか	・葛藤や大きく変容した場面を捉えて発問する。 ・対話を念頭において発問する。 ・価値について自分を振り返る発問をする。	・教師と子供の一問一答では価値の深まり、広がりには望めない。「○○さんの今の意見についてどう思うか」と問い、多様な価値観を引き出したい。
	(○分)	○補助発問等 ・基本発問や中心発問を補ったり深めたりする発問 ・問い返したり、ゆさぶったりしながら、児童生徒の考えを深めたり、広げたりする。	考える必然性や切実感がある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。	ワークシートの記述や役割演技の出来不出来そのものを評価するのではなく、学習を通して、いかに道徳的価値の理解を深めたか、自分との関わりで考えたか、多面的・多角的に考えたかを見取って評価することが大切である。
終末	○分	4 本時の振り返り ・学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。 ・学んだことを更に深く心にとどめる。 ・これからへの思いや課題について考える。 自分ごととして考えることが、道徳的課題解決のための決意表明にならないようにする。学習を通してねらいとする価値についてどのように考えたのか、新しい気づきがあったのか等、自分なりの納得解を自覚できるような振り返りが望ましい。	○道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか、自分事として考えているか等、学習状況を見取る。 ○多面的・多角的に考えたり、発言したりしているか等、学習状況を見取る。 発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりする姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿にも着目する。	

(3) 板書計画

児童生徒の思考を助け、話し合いのポイントが明確になるようにする。

4 他の教育活動との関連

各教科との関連及び総合的な学習の時間、特別活動等とつながる部分について掲載する。

(※千葉県教育庁北総教育事務所「北総の手引き」より)

ファシリテーターの役割

○ファシリテーションとは…

ファシリテーション【facilitation】[容易にすることの意]

グループによる活動が円滑に行われるように支援すること。特に、組織が目標を達成するために、問題解決・合意形成・学習などを支援し促進すること。また、そのための方法。

『大辞林（第三版）』三省堂

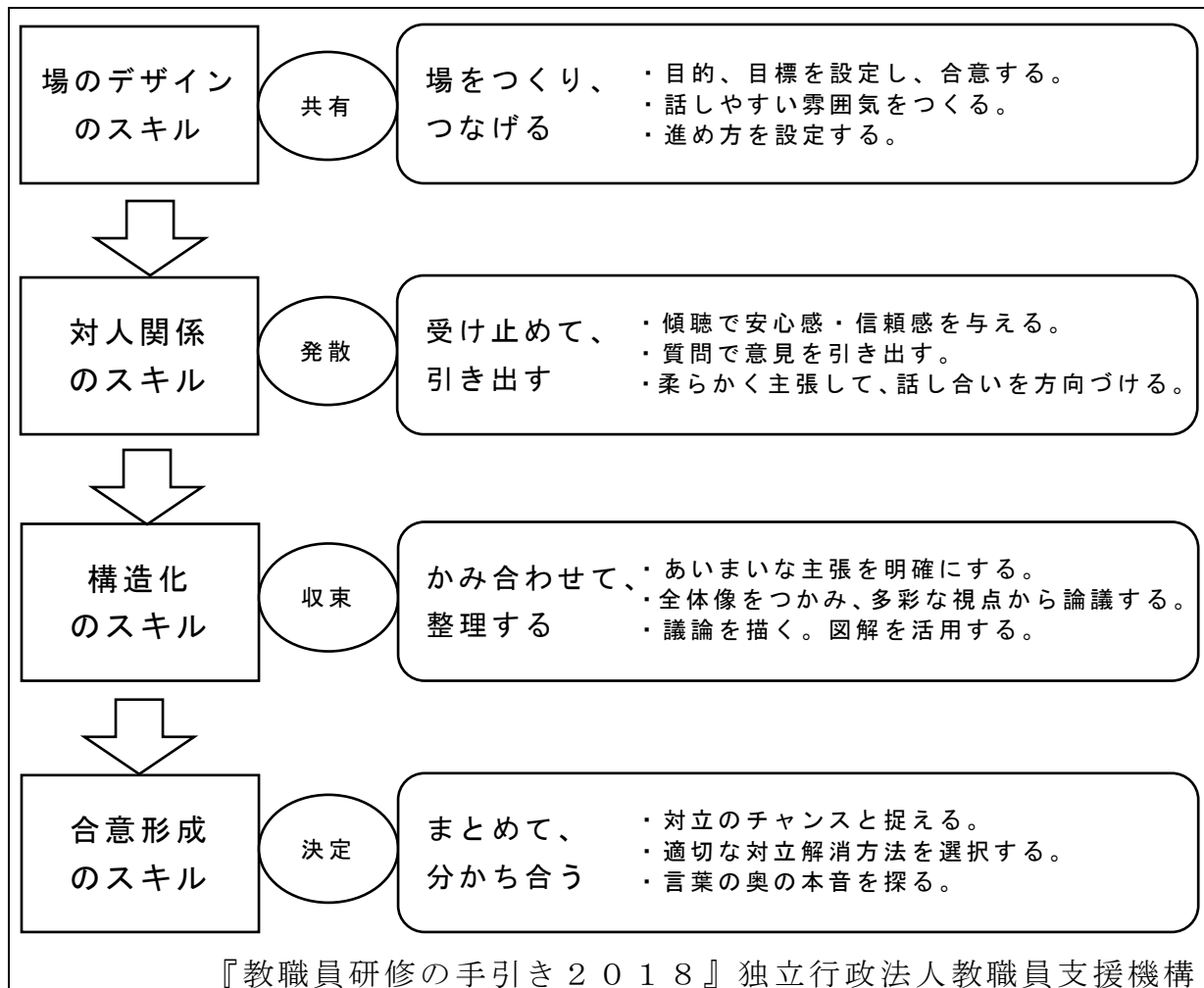
○ファシリテーターとは…

ファシリテーター【facilitator】

その人の存在によって物事がスムーズに運ばれたり、困難の度合いが軽減されたりする。ワークショップの際、参加者全員が意見を出し合い、等しく参加できるように工夫し、問いかけなどにより的確な気づきを促す進行役である。また、参加者全員の感性を活性化させる役割も期待される。

『新版 学校教育辞典』教育出版株式会社

○ファシリテーションの4つのスキル



校内研究評価表（例）

校 内 研 究 評 価 表（例）

項目		NO	評 価 項 目	評 価			
研究の計画・共通理解	実態把握	1	児童生徒の実態把握を客観的なデータを基に行っている。	4	3	2	1
	研究主題の設定	2	前年度にまとめた研究の方向性との関連が図られている。	4	3	2	1
		3	学校の教育目標との関連が図られている。	4	3	2	1
		4	児童生徒の実態との関連が図られている。	4	3	2	1
		5	研究目標は明確で具体性をもったものである。	4	3	2	1
		6	研究主題等の内容を全教職員が共通理解している。	4	3	2	1
	研究組織の決定・年間計画の作成	7	研究主任や研究推進委員会の役割が明確である。	4	3	2	1
		8	全教職員が何らかの形で参加できる組織である。	4	3	2	1
		9	学校の実態に応じた組織である。	4	3	2	1
		10	無理のない効率的な年間計画である。	4	3	2	1
研究の実践	校内授業研究・日常実践	11	校内授業研究の役割分担をし、準備をしている。	4	3	2	1
		12	参観者の視点を明確にしている。	4	3	2	1
		13	検討の視点を明確にした指導案検討を行っている。	4	3	2	1
		14	会の流れと時間配分を示し、時間を意識して指導案検討会を行うことができた。	4	3	2	1
		15	参加・体験型の研究協議会を行うことができた。	4	3	2	1
		16	研究協議会を通して確認された成果や課題を全教職員で共有している。	4	3	2	1
		17	自己の課題を踏まえ、授業研究会で学んだことを日常の授業実践に生かすことができた。	4	3	2	1
研究のまとめ		18	アンケートや授業実践の積み重ね（ノートやワークシート等）を基に児童生徒の変容を捉えることができた。	4	3	2	1
		19	研究主題や目標に即した成果や課題が明確に示されている。	4	3	2	1

（4：とてもあてはまる 3：だいたいあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない）

改善のための手立てのヒント

改善のための手立てのヒント

※評価が低い項目について改善を図る際には、ヒントに記載された「校内研究ガイドブック」のページを参考にして下さい。

項目	N0	評価項目	ヒント
研究の計画・共通理解	実態把握	1 児童生徒の実態把握を客観的なデータを基に行っている。	P1
	研究主題の設定	2 前年度にまとめた研究の方向性との関連が図られている。	P2～P5
		3 学校の教育目標との関連が図られている。	
		4 児童生徒の実態との関連が図られている。	
		5 研究目標は明確で具体性をもったものである。	
		6 研究主題等の内容を全教職員が共通理解している。	
	研究組織の決定・年間計画の作成	7 研究主任や研究推進委員会の役割が明確である。	P6
		8 全教職員が何らかの形で参加できる組織である。	
		9 学校の実態に応じた組織である。	
		10 無理のない効率的な年間計画である。	P7, P8
研究の実践	校内授業研究・日常実践	11 校内授業研究の役割分担をし、準備をしている。	P11
		12 参観者の視点を明確にしている。	P12, P15
		13 検討の視点を明確にした指導案検討を行っている。	P13
		14 会の流れと時間配分を示し、時間を意識して指導案検討会を行うことができた。	P13
		15 参加・体験型の研究協議会を行うことができた。	P16～P21
		16 研究協議会を通して確認された成果や課題を全教職員で共有している。	P22
		17 自己の課題を踏まえ、授業研究会で学んだことを日常の授業実践に生かすことができた。	P23, P24
研究のまとめ		18 アンケートや授業実践の積み重ね（ノートやワークシート等）を基に児童生徒の変容を捉えることができた。	P25, P26
		19 研究主題や目標に即した成果や課題が明確に示されている。	P27

あとがき

ちばっ子「学力向上」総合プラン（学びの未来づくり ダブル・アクション＋ONE）では、「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢を持ち 授業を工夫する教員」を目指す姿に掲げています。私たち教員は、児童生徒の「学力向上」のために日々の授業を大切にし、児童生徒の資質能力の向上につながるよう「授業改善」に努めることが何よりも大切です。そして、教員が授業力を高めるためには、研修・研究の充実が必要です。特に各校で校内研究として取り組んでいる授業研究は、児童生徒の実態に即して、日常的・継続的に授業改善を進める上で大変有効です。

しかし、近年、研修時間の確保が難しい、授業研究会での検証授業がその場限りで日常の教育活動に反映されない、若い研究主任が校内研修をどのように進めていったら良いか悩んでいるなどの様々な理由により、校内授業研究が十分に機能しなくなっているという声も聞こえてきます。

このような状況を改善するために、千葉県総合教育センターでは、2年間に渡り「これからの時代に生きる教員を育てる教員研修の在り方に関する研究」を行い、この「校内研究ガイドブック」を作成いたしました。本ガイドブックは、校内研究モデルプランを基に参加・体験型の校内研究を限られた時間の中で効果的・効率的に進めるポイントをできるだけ具体的に示しています。また、先進校の研修の様子を視聴したり、参考文献等をすぐに確認したりできるQRコードを掲載しているところも特徴です。校内研究推進の手引きとして、各学校で、研究主任を中心に活用していただければと思います。

最後に、2年間にわたって、また、コロナ禍において、本事業に御協力をいただいた研究協力校をはじめ、関係機関、県内教育事務所指導主事の皆様へ、心より感謝申し上げます。

■主な参考文献■

- ・『小学校学習指導要領』、『小学校学習指導要領 解説総則編』 文部科学省(平成 29 年)
- ・『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領 解説総則編』 文部科学省(平成 29 年)
- ・『教職員研修の手引き2018』 独立行政法人教職員支援機構(平成 30 年)
- ・『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』 千葉県教育委員会(令和 2 年)
- ・『指導改善のためのセルフチェックシート』 千葉県教育庁南房総教育事務所(令和 元 年)
- ・『校内研究ガイドブック 授業力アップ』 千葉県総合教育センター(平成 21 年)
- ・『すぐに使える校内研修の手法とツール～参加・体験型研修のすすめ～』 千葉県総合教育センター(平成 29 年)
- ・『これからの時代に求められる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントサポートブック』 千葉県総合教育センター(平成 31 年)
- ・『全国学力・学習状況調査分析結果報告書』 千葉県総合教育センター(令和 元 年)
- ・『学校教育目標の具現化のための校内研究の在り方』 千葉市教育センター(平成 26 年)
- ・『授業研究ハンドブック 校内研修改善に向けた4つの提案』 福島県教育センター(平成 28 年)
- ・『校内研修ガイドブック』 栃木県総合教育センター(平成 29 年)
- ・『校内授業研究充実のためのポイント』 島根県教育委員会西部教育局(平成 28 年)
- ・『校内研究・研修の手引き』 札幌市教育委員会(平成 28 年)

■ 研究協力校（参観校） ■

このガイドブック作成にあたり、以下に記載した校内研究の先進校の授業研究会の参観や取材をさせていただきました。

ありがとうございました。

【令和元年度】

- | | |
|----------------|----------------|
| ・ 長生村立高根小学校 | ・ 栄町立竜角寺台小学校 |
| ・ 板橋区立上板橋第四小学校 | ・ 千葉県立船橋東高等学校 |
| ・ 成田市立向台小学校 | ・ 松戸市立小金中学校 |
| ・ 館山市立館山小学校 | ・ 千葉県立夷隅特別支援学校 |
| ・ 習志野市立藤崎小学校 | ・ 白井市立白井第二小学校 |

【令和２年度】

- | | |
|---------------|--------------|
| ・ 流山市立流山北小学校 | ・ 成田市立本城小学校 |
| ・ 酒々井町立酒々井小学校 | ・ 四街道市立中央小学校 |
| ・ 市川市立新井小学校 | ・ 一宮町立一宮小学校 |
| ・ 白井市立白井第二小学校 | |

■ 研究担当所員 ■

【令和元年度】カリキュラム開発部

部	長	古市	利行
研究開発担当			
研究指導主事		黒川	健二
研究指導主事		香取	伸嘉
研究指導主事		稗田	隆二
研究指導主事		堀口	靖之

【令和２年度】カリキュラム開発部

部	長	朝倉	真由美
研究開発担当			
主席研究指導主事		福中	義宏
研究指導主事		香取	伸嘉（主担当）
研究指導主事		濱田	素子
研究指導主事		寺嶋	美幸

研究報告 第444号

研究報告 「校内研究ガイドブック」

令和3年3月

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

櫻井 比呂樹

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番地

TEL 043 (276) 1166

FAX 043 (272) 5128

